

複数大学の連携による産学連携の推進について

宮浦千里

- 産学連携の数や金額を大幅に増やしていくためには、大規模大学だけでなく、中小規模の大学も得意分野を活かした産学連携を積極的に進めるべき。
- しかし、大規模大学と違い、中小規模の大学は、研究者がカバーできる分野がフルラインナップとはなりにくい。
また、産学連携を仕切れるディレクター的な人材も少ない。
- 一方で、産業界側が期待しているのは、個別の分野というよりは、基礎から商品開発までを大きくカバーした共同研究であり、中小規模の大学単独ではこれに応じることができない。
- そこで、ディレクター的な人物が、あるテーマに関する複数の大学や研究機関の研究者を中立的立場でコーディネートして、産業界の期待に応えられるアカデミアサイドの機関横断的な共同研究の体制を構築するような仕組みができれば、大規模大学および中小規模大学が連携して、産学連携にもっと寄与できるのではないか。
- この場合、いかに機関横断連携の体制を立ち上げ、管理していくかが問題である。既存の取組や成功事例、海外事例を参考にしつつ、大学側からも積極的に知恵を出し行動していく必要があるのではないか。